

【本件リリース先】

文部科学記者会、科学記者会、  
広島大学関係報道機関



広島大学

NEWS RELEASE

広島大学広報室  
〒739-8511 東広島市鏡山 1-3-2  
TEL : 082-424-4383 FAX : 082-424-6040  
E-mail : koho@office.hiroshima-u.ac.jp

令和4年5月16日

現地説明・見学会（5月18日（水）・全農チャレンジファーム広島・三原農場）の  
ご案内

## 広島大学とJA全農ひろしま 鶏ふん堆肥を有効活用する持続可能な米作りに向け共同研究

### 情報提供

広島大学とJA全農ひろしまとは、資源循環型農業の拡大に寄与する「水稻栽培における鶏ふん堆肥の有効活用」を目的に、共同研究を実施することになりました。

つきましては、5月18日（水）10：00から全農チャレンジファーム広島・三原農場にて現地説明・見学会を開催いたします。

報道機関の皆様には、ご多用とは存じますが、ぜひご出席いただきますようご案内いたします。

### 【概要】

我が国では家畜飼料の多くを輸入に依存していますが、それは同時に作物の養分も輸入していることを意味しています。排出された家畜排泄物中の養分を堆肥化によりリサイクルして、輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料を低減することが、持続可能な食料生産、地球温暖化の抑制に向けた重要な課題です。また、最近の円安やロシアのウクライナ侵攻（肥料原料供給の支障）等を背景に、原料の大部分を輸入に依存する化学肥料の確保、肥料価格の高騰などが懸念されるため、国内の資源を有効活用する必要性が急激に高まっています。加えて、有機物である堆肥は土壌の構造や機能の改善や維持に欠かせず、積極的に利用すべき有用資源です。

広島県のみならず全国的にも鶏ふん堆肥の利用率が低いことから、栽培面積が広く堆肥があまり利用されていない水稻栽培に利用することが有効と考えられますが、水田における鶏ふん堆肥の肥効、水稻の生育や収量、米の品質に及ぼす影響が十分検討されていないため、化学肥料を主体とした慣行施肥からの移行が進んでいません。作物生産は気候、土壌、品種などの地域性に強く依存するため、地域独自の生産体系を構築することが求められます。

広島大学では、鶏ふん堆肥の施肥量・条件と水稻の生育、養分吸収、収量、土壌の性質、米の栄養や食味などとの関係を検証して、適切な鶏ふん堆肥の施肥量・条件を提案します。

農水省が策定した「みどりの食料システム戦略」における取組として掲げられた、地域・未利用資源の活用と資源のリユース・リサイクルに向けた体制構築を通じた、耕畜連携による堆肥活用の技術向上は、食料安全保障および栄養を担保した持続可能な農業の実現、気候変動及びその影響を軽減するための対策、持続可能な土地利用の推進といった持続可能な開発目標（SDGs）にも貢献します。

## 【記者説明会】

現地説明・見学会を実施します。

実施日：令和4年5月18日（水）

場所：三原市 高坂町真良 2110-4 全農チャレンジファーム広島・三原農場

### 1. 概要説明会 10:00～10:50

- ・共同研究の取り組みについて（JA全農ひろしま 営農資材部 豊田部長）
- ・共同研究の概要、調査計画などについて（広島大学 生物生産学部 長岡准教授）

### 2. 現地見学会 10:50～12:00

説明会場から徒歩にて移動

- ・試験圃場の概要、本日の作業等について（JA全農ひろしま 営農資材部 広島営農技術センター 片島センター長）  
鶏ふん堆肥を施用した水稻栽培試験圃場への「定植（田植え）」作業を行っています。

\* 現地説明会・見学会にご出席される場合は、準備の都合上、前日 12 時までにご一報下さるようお願いいたします。現地見学会は、屋外での作業となるため、荒天時は中止します。（概要説明会は荒天時も実施）

## 【お問い合わせ先】

<研究に関すること>

大学院統合生命科学研究科・生物生産学部  
准教授 長岡 俊徳

Tel：082-424-7969

E-mail：tnagaok@hiroshima-u.ac.jp

<報道に関すること>

広島大学広報室

秋葉 苑

Tel：082-424-4383

E-mail：koho@office.hiroshima-u.ac.jp

<現地説明・見学会に関すること>

JA全農ひろしま 改革推進部 改革推進課 狩谷・坂田

Tel（事務所）：082-846-4701

発信枚数：A4版 3枚（本票含む）

(別紙)

【FAX返信用紙】

FAX：082-424-6040

広島大学広報室 行

広島大学×JA全農による概要説明会および現地作業見学会のご案内  
(5/18)

広島大学×JA全農ひろしま  
鶏ふん堆肥を有効活用する持続可能な米作りに向け共同研究

日時：令和4年5月18日(水)

① 概要説明会 10:00~10:50

② 現地作業見学会 10:50~12:00

場所：三原市高坂町真良 2110-4 全農チャレンジファーム広島・三原農場

出席者：広島大学大学院統合生命科学研究科 長岡 俊徳 准教授

JA全農 営農資材部 片島 恒治センター長

ご出席  ご欠席

貴社名 \_\_\_\_\_

部署名 \_\_\_\_\_

ご芳名 \_\_\_\_\_ (計 名)

電話番号 \_\_\_\_\_

※誠に恐れ入りますが、上記にご記入頂き、5月17日(火)16:00までにご連絡ください。

